

—革命の未来が我々のそれを規定し、

映画

5月29日 PM 2:00 3番教室 圧殺の森・青年の海
 30日 PM 1:00 3番教室 ゲン三報告書・三里塚の夏
 31日 AM 11:30 3番教室 バルチザン前史・反乱(仏・五月革命)・



今、我々は自らが既成の価値の全てが破壊され新しい方向を生み出すべき過渡期に存在している事を確認する。資本主義社会が成立して以来、人間はブルジョアジーとプロレタリアートに分裂し、今未来を持つ唯一の階級としてのプロレタリアートによる全社会の最後の止揚が問われている。資本主義の最後の段階としての帝国主義は、自らの死滅の時期が近い事を知っているが故に、最後の苦闘を、プロレタリアート人民の大量虐殺と弾圧、圧制の強化という形で出現して来ている。我々は早急に、腐敗堕落してきた帝国主義に最後の一撃を加えねばならない。全学連一反戦によって闘われた、67年10・8羽田闘争は社共体制内反対派に一撃を与え、自らを帝国主義打倒の主流として登場させた。

それ以降の闘争は反帝統一戦線が内実として国際主義と組織させた暴力を掲げる事によって、明確にプロレタリアート独裁を実現する戦線として自らを高めて行く過程だったのである。侵略と反革命の佐藤政府は、東南アジア一帯に自己の支配を貫徹し、米帝との共闘反革命をより強固にする政策を展開している。すでにかかる日帝と米帝の反革命軍事体系はベトナム、ラオス、カンボジアに於いて解放軍と衝突している。全学連一反戦は東南アジア一帯に対して遂行されている反共軍事外交に対して、革命的反戦闘争として闘い抜いたのである。同時に日本帝国主義の侵略体制の確立に向けた、社会的再編はプロレタリアート人民の抑圧のより一層の強化を結果し反戦が支配階級に対する肉迫した闘争を貫徹している。これに対して

進撃する大衆が全世界を獲得するまで—

学生会中央執行委員会 BUND

俺達はロボットか・ブラックパンサー・ストライキ・ストライキ



12・14日比谷野外音楽堂 全共闘一革マル派のゲバト

支配階級は国内再編の全面化を行っている。大学立法・安保等、又、ベトナム解放闘争は米軍のベトナム撤兵を余儀なくさせ、米帝国主義者と結託したカライ軍事政権—ラオス・カンボジアに対する一武装解放闘争を展開させ、現在インドシナ一帯が世界革命戦争の突破口として存在している。米帝とカライ政権は人民の海によって、インドシナ海にたたき出される日は近いだろう。60年代後半、高揚した国際階級闘争はベトナム革命戦争を頂点として闘われた。今インドシナ一帯で革命戦争が拡大しつつも、先進帝国主義内部では闘争の挫折を余儀なくされている。今、我々は60年代最後の階級闘争を本格的に解明し、新しい飛躍を勝ち取らなければならない。70年代の階級闘争こそ世界革命の現実であるし、我々が帝国主義

列強の打倒とスターリン主義解体を実現する年代であるのだ。すでに革命戦争は開始されている。我々は先進国内部に、日本内部に本格的闘いを組織しなければならない。帝国主義軍隊を解体し、反帝統一戦線を改編し、権力闘争に耐えうる組織を建設せよ。学生会中央執行委員会は単なる映画のみならず、本格的権力闘争の開始に向けて、全面的に討論を行なう事を確認する。